

学校点描

台風24号は、心配された割には大きな被害もなく過ぎていって安堵いたしました。

《S 中学校》

NO.9 H30. 10.1

台風が去って安心していたのですが、その日の朝の小中合同あいさつ運動の途中には横殴りの雨が激しく降り、挨拶運動に参加して下さった保護者の方、地域の方には大変な思いでのあいさつ運動となりました。その時間に登校した生徒も制服がずぶ濡れでしたので、ジャージに着替えさせて学校生活を送らせました。

今週の4日木曜日は、新生徒会の役員を決める立会演説会と生徒会役員選挙が実施されます。生徒が自らの生活を見直し改善する、その活動の中心となるのが生徒会です。話によると、高校では生徒会役員になる人が誰もいなくて困っている学校が多くなったそうです。

先週から毎朝、昇降口に、立候補者の2年生が立って、選挙活動を兼ねてのあいさつ運動を行っています。今年は、生徒会長立候補者が3名、副会長立候補者が3名、他に事務局長に2名、応援団長に2名、学級委員長に2名、生活委員長に2名、JRC委員長に2名と選挙になる役職が多いです。4日の投票日には、当選者と落選者が出るわけですが、立候補に挑戦した経験は何よりも代えがたいと感じてほしいです。

あてにしている一言

故J. Fケネディ大統領は、その就任式で『アメリカが、あなたに何をするかではなく、あなたがアメリカに何をしてくれるかだ』と言った演説はあまりにも有名です。国づくりも学校づくりも似たところがあります。



わたしの事を言うのはちょっと恥ずかしいのですが、わたしは中学校のとき、生徒会長に立候補して見事落選したんですね。だから、生徒会の役員に対する目は、少々嫉妬を含んでいるのかもしれませんが。落選した事を生徒に言うと、生徒は喜んで笑うんです。でも、当時の自分は、真面目に母校を愛し、考えていたわけで、落選したショックは相当でしたね。

先週は1年B組に、昨日は1年A組の道德の時間をお借りして、担任に代わっての道德をさせていただきました。テーマは『責任』についてです。今年度から道德は『新しい教科 道德』となり、小学校では教科用図書を使つての授業が始まりました。来年度は中学校において同じように教科用図書を使用しての授業が始まります。これまでの“領域”としてではなく、“教科”としての道德ですので、評価もしなくてはなりません。でも、数字の評価ではなく、生徒の良さを生かした評価ということになります。この授業を通して、多角的・多面的に、また「自分だったらどうするか」という考えを持って思考していたかがポイントになります。

B組の授業では、清掃活動を班員全員がさぼった場合、代表して班長ばかりが責められること

に納得しないという議論になりました。責任は全員平等なはずだという議論の流れの一方でA・Rさんは、「班長とか、リーダーの場合は、みんなをまとめる仕事があるから、みんなの責任だけじゃなくて、リーダーとしての責任なのかな」と考えてくれました。H・Dさんは「責任には、ひとりずつもあり、班員みんなにもある。そんなことが僕は主張できたと思う。」と授業後の感想に書いてくれました。責任について考えると、関わった人は皆平等で責任を負うべきだという思いが1年生の生徒達にはあるようです。ただ、責任っていうのは、そればかりじゃなく、班長やリーダーとしての行動の責任、長男や長女としての行動の責任、そんな責任もあるのかもしれないと考えた生徒もいたわけです。

最近の“責任”という言葉には、どうしてもテレビの謝罪会見で頭を下げる大人のネガティブなイメージがついてまわります。でも、責任とは、その人しかできないこと。その人だから期待されていることの裏返しでもあるのです。「君が居てくれてよかったよ」「君のおかげだ。」こんな言葉が、責任の裏側に隠れています。

4日に決まる生徒会のリーダー達にも、そんな責任の裏側を感じての1年間にしてほしいものです。

学校でも、家族でも、地域でも**自分があてにされているんだ**と実感できる生徒は幸せですね。

皆さんのご家庭では、この幸せを実感させる方法はどのようにとっていますか？

「お兄（お姉）ちゃんのくせに！」と言ってきたことを、「お兄（お姉）ちゃんのおかげだよ！」に変えるのも、1つの方法ですね。

お陰様で、わたしは選挙落選の後も、非行やぐれることはありませんでした。

落選が決まった日、生徒指導の先生であり、わたしの部活動の顧問でもある先生が、わたしを職員室に呼んで言うんです。

「残念だったな。でも、うちの部にとってはよかったよ。」って。

わたし、この言葉で、挫折の中から幸せをつかみました。

（文責 教頭）

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp